



※既にご購入いただいた方、これからご購入になる方へ

ガソリンは危険物です!携行缶使用時のご注意

ジェリ缶(ガソリン携行缶)
ご使用時の不注意・誤った
ご使用は大変危険です。

必ず本商品の「構造・取扱い方法」を熟知した後にご使用下さい。



ガソリンは引火点が低く、静電気や電気火花等により容易に火災を起こす危険性を有しており、取扱いを誤ると、容易に事故に至ります。ジェリ缶(ガソリン携行缶)をご使用になる方は、危機管理の重要性を十分ご理解いただいた上で、正しく安全なお取扱いをお願い致します。

ジェリ缶(ガソリン携行缶)への給油時の注意

- ・消防法により、フルサービススタンドの資格を持った従業員でなければ携行缶への給油は禁止されています。
- ・ジェリ缶(ガソリン携行缶)の出荷状態時は、検品後の状態(タンクキャップ・ロックピンが閉まった状態)となっています。必ずロックピンのリリース及びタンクキャップをご自身でもテスト開閉し「構造・取扱い方法」を熟知した後に使用すること。
- ・ガソリンは、引火性・着火性の高い危険物です。給油の際は、周囲に火気がないことを十分確認のうえ、必ずエンジンを停止すること。
- ・規定容量以上は絶対に入れないこと。
- ・ガソリン以外の灯油・軽油・混合油を入れる場合は、必ずマーキングやシール等を目立つ箇所に貼付し、入れ間違いのないよう注意すること。

ガソリン携行・保管時の注意

- ・ガソリンの携行は専用の金属製携行缶に限られ、ポリタンクなど他の容器の使用は消防法により禁止されています。
- ・ガソリンは、長期保管をすると品質が劣化し、燃料として使用できなくなります。早めに使用すること。また、空気に触れる機会が増えると劣化が早まります。できるだけ1回で補給すること。
- ・ガソリンは、引火性・着火性の高い危険物です。保管が必要な場合は、火の気がなく温度変化の少ない安全な場所に保管すること。直射日光が当たる場所、高温になる場所での保管は変形、破裂及び火災、雨や雪に当たる場所、湿気の多い場所での保管は錆などの原因となり、いずれも大変危険です!
- ・保管前には、タンクキャップを確実に締めた状態で携行缶をゆっくりと傾け、タンクキャップ、本体から漏れないことを確認したうえで、常に安定した平らな場所に固定して保管すること。

ジェリ缶(ガソリン携行缶)車載時の注意

- ・車に搭載できるのは、最大容量 20L までです。
- ・ジェリ缶(ガソリン携行缶)を動かす際は、タンクキャップ・ロックピンを確実に締めた状態でジェリ缶(ガソリン携行缶)をゆっくりと傾け、タンクキャップ、本体から漏れないことを確認してから移動すること。
- ・車に搭載する場合は、必ずポリエチレンの袋や受け皿に置き、ジェリ缶(ガソリン携行缶)本体が動かないようしっかりと固定すること。

ジェリ缶(ガソリン携行缶)から車への給油時の注意

- ・給油の際は、万が一溢れても周囲・人体に危険を及ぼさない安全な場所で行うこと。
- ・携行缶から車に給油する場合は、ジェリ缶(ガソリン携行缶)を地面に下ろし、しっかりと接地したことを確認のうえで行うこと。車に搭載したまま給油すると、静電気の火花放電によりガソリン蒸気に着火する恐れがあり、大変危険です!
- ・キャップ、ノズルの開閉時は、軍手などを着用すること。
- ・まず、缶を給油口が上向きになるよう、平らで安全な場所に置きます。
- ・次にタンクキャップを外します。その際、必ずタンクキャップ部分に厚めのウエス等(なるべく難燃性)をしっかりとあてて、ガソリンの噴出しに備えて下さい。
- ・ウエス等をしっかりとあてた状態でゆっくりとタンクキャップを緩め、缶内の圧力を調整してから取り外すこと。
- ・ウエス等のあて布をしなないまま、タンクキャップを一気に外すと、内圧差によるガソリンの噴出、飛び出し等による事故が起きる恐れがあり、大変危険です!
- ・専用ノズルを確実に取り付けたことを確認し、ノズルを注油する方向に向け、缶をしっかりと持って注油します。
- ・使用後は専用ノズルを外し、タンクキャップを確実に締めること。そのうえで缶を静かに傾け、タンクキャップからガソリン漏れないことを確認すること。
- ・専用ノズルは、安全な場所でよく乾燥させたいので、本体天面のノズル止めにはめ込むこと。

ジェリ缶(ガソリン携行缶)保存時の注意

- ・ジェリ缶(ガソリン携行缶)が空になっても、火気は絶対に近づけないこと。
- ・使用前には、本体、各部品に破損や劣化がないことをよく確認すること。本体は亜鉛メッキ鋼板に防食腐塗料が施された耐久仕様ですが、使用環境・状況によっては錆が発生する場合があります。
- ・錆や破損、劣化が見られる場合は、直ちに使用を中止すること。
- ・タンクキャップ、給油ノズルのパッキンに破損、劣化が見られる場合は、必ず部品交換すること。